

〔視点4〕 全ての児童が安心して学ぶことができる学習環境

1 日常的にICTを活用することのできる環境を整備する。

基盤的なツールとしてのICT

ICTは個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実する基盤的なツールとして必要不可欠です。

そのため、特定の教科等のみによる活用にとどまらず、ICT活用の特性・強みを活かし、これまでの実践と適切に組み合わせて、学びの過程において日常的に活用することが大切です。

【POINT】

< ICT活用の特性・強み >

- 1 多様で大量の情報を収集、整理・分析、まとめ、表現することなどができ、カスタマイズが容易
- 2 時間や空間を問わずに、音声・画像・データ等を蓄積・送受信でき、時間的・空間的制約を超える
- 3 距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやりとりができるという双方向性を有する

ICT活用の特性・強みを活かした活用

1 【多様な情報の収集】

インターネットを活用し、実物に加えて、多様な情報から考えを広げる



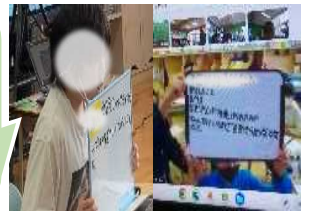
2 【空間的制約を超える】

ウェブ会議機能を活用し、空間的制約のない交流・連携



3 【相互に情報の発信・受信】

オンラインを活用し、他校の友達と考えを同時双方向で発信・受信



2 情報を正しく安全に利用できるようにする。

情報モラル教育の基本的な考え方

児童が自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつとともに、犯罪被害を含む危機を回避し、情報を正しく安全に利用できるようにするため、学校における情報モラル教育は極めて重要です。

【POINT】

・情報モラルの指導では、「節度」「思慮」「思いやり」などの日常モラルを育てること、「インターネットの特性」「心理的・身体的特性」「機器やサービスの特徴」などの情報技術の仕組みを理解させること、また、こうした日常モラルと仕組みを組み合わせることで考えさせることが大切です。

3 学級を互いに学び合う学習集団に育てる。

互いに学び合う学習集団

児童一人一人に対する理解の深化を図った上で、安全・安心な学校、学級の風土を創り出すこと、児童一人一人が自己存在感を感じられるようにすること、教職員と児童の信頼関係や児童相互の人間関係づくりを進めること、児童の自己選択や自己決定を促すことなど、生徒指導の実践上の視点から学習指導の充実を図っていくことが大切です。

【POINT】

・児童一人一人が、学級内でよりよい人間関係を築き、学級生活に適応し、各教科等の学習や様々な活動の効果を高めることができるよう、学級内での個別指導や集団指導を工夫することが大切です。

集団づくりの基盤 (生徒指導提要 R4.12)

- ① 安心して生活できる
- ② 個性を発揮できる
- ③ 自己決定の機会を持てる
- ④ 集団に貢献できる役割を持てる
- ⑤ 達成感・成就感を持つことができる
- ⑥ 集団での存在感を実感できる
- ⑦ 他の児童と好ましい人間関係を築ける
- ⑧ 自己肯定感・自己有用感を培うことができる
- ⑨ 自己実現の喜びを味わうことができる